



Photo: Tamar Lamm

Dance New Air 2020→21 ダンスの明日

2年に一度、東京・青山エリアを中心にダンスの「今」と「これから」を提示するダンスフェスティバル Dance New Air（略称：DNA）。2021年も、社会を敏感に感じ取りながら新しい風を起こしていくアーティストが集結します。

鼓動が人を動かし、感情を解き放つ。太古の時代から、人々は祈りや願い、喜びや悲しみといった感情の表現として踊り、身体を通して語ってきました。踊りは、私たち人間の身体に組み込まれた根源的な DNA のような存在かもしれません。時を超え、現代の表現者たちは、時代を見つめ、絶えず変化し続けます。

今回の「Dance New Air 2020->21」では、「身体と社会の生態系」をキーワードにしています。自然や社会、私たちを取り巻く環境で様々な異変や、人や場所の分断が起きています。社会に生きる私たちが、これからどう生きるのか。突然にはっきりと立ち現れたその問いに、それぞれのアーティストの眼差しと思考が重なります。

Dance New Air 2020->21

会期：2021年10月23日（土）～11月12日（金）

会場：スパイラルホール、スパイラルガーデン、草月ホール、SHIBAURA HOUSE、ゲート・インスティトゥート東京、
みなと科学館、BUoY、シアター・イメージフォーラム、青山ブックセンター本店

チケット：9月中旬発売予定

<http://dancenewair.tokyo/> IG&FB @dancenewair twitter @DanceNewAir

参加アーティスト紹介

*公演日順 (7月31日現在)

東京・青山エリアを中心に、田町や北千住のサテライト会場を含む6会場で、国内外6組の公演を行います。

そのほか、若手アーティストによるショウケース、展覧会でのパフォーマンス、映画館でのダンスフィルム、書店でのダンスブックフェア、親子向けのワークショップとして人気の高い「ダンス保育園!!」など、さまざまなプログラムをご用意しています。

自分たちの周辺を直視するところから思考を広げるダンス。Dance New Air がご紹介する作品群から、未来に向けてのヒントや希望を見出していただけましたら幸いです。ダンスと初めて出会う人々にも、またダンスと深く関わってきた人々にも、新しい扉を開くフェスティバルとなることを願います。

アーティスト：ダヴィデ・ヴォンパク、川口 隆夫、ふくだ ぺろ

作品名：INOUSIDE

公演日時：10/23 (土)、10/24 (日)

会場：SHIBAURA HOUSE



ダヴィデ ポートレイト (右上) photo: Martin Colombet FB

「ウイルスがヒントをくれる未来」というテーマのもと、アーティストやパフォーマー、研究者を招いてパフォーマンスや展示、ワークショップ、トーク、パーティなどを行う。参加者と様々な知見やアイデアを交換し、一緒に、ウイルスと共に生きる未来を考えるプロジェクト型作品。ダヴィデ・ヴォンパク (振付家 / ダンサー)、川口隆夫 (ダンサー / パフォーマー)、ふくだぺろ (マルチモーダル人類学者 / 詩人) による、2日間のプログラム。

David Wampach

フランスの振付家。演劇や美術の視点を取り入れながらダンスを創造する手法が高く評価されている。2003年以降今日まで、過激かつ幻惑的な作品を数多く発表。さまざまな楽器を演奏する音楽家との協働によりコンテンポラリーダンスにおいて儀式やトランスといった側面など、これまでにない新しい実験的な空間を創出している

Takao Kawaguchi

1996年から「ダムタイプ」に参加。2000年以降はソロを中心に、舞台パフォーマンスの幅広い可能性を探求。2013年、『大野一雄について』(2013)を発表。16年秋の公演でニューヨーク・ベッシー賞にノミネートされ、現在も世界各地をツアーしている。

fukudapero

マルチモーダル人類学者、詩人。立命館大学先端総合学術研究科博士課程在籍。イギリス、ルワンダ、日本をフィールドとして、現実と過去 (未来) の創造を主要テーマに論文、像、詩、写真、小説、スケッチといったメディアを複合的に用いて制作に従事する。

アーティスト：武本 拓也

作品名：山を見にきた

公演日時：10/26 (火) 19:00、10/27 (水) 19:00

会場：ゲーテ・インスティトゥート東京



photo: コムラマイ

そこにいるとはどういう事か。そうした問題意識のもと、ただそこにいるという上演を、観客の有無に関わらず毎日繰り返し行っている武本拓也による新作。これまで発表してきた作品の中で、一番広いスペースとなるゲーテ・インスティトゥート東京の講堂を舞台に、武本の身体を纏う空間とそこにある全ての事象を体感する、自身の全神経が研ぎ澄まされる1時間。

Takuya Takemoto

「いる」という事への関心のもと、立つ/歩く/見るなどの最小限の動作のみで、2017年より観客の有無に関わらず上演に取り組んでいる。「正午に透きとおる」(2019)「象を撫でる」(2018)など自作のソロ公演のほか、俳優・ダンサーとしても活動。武蔵野美術大学 映像学科卒業。美学校 実作講座「演劇 似て非なるもの」修了。

アーティスト：ハラ サオリ

作品名：Da Dad Dada

公演日時：10/30 (土) 18:00、10/31 (日) 15:00

会場：草月ホール



photo: Sylvia Steinhäuser

1960年代にミュージカルダンサーとして活躍した実父、原健にまつわるリサーチをベースに、「不在」をテーマとして制作したセルフドキュメント・パフォーマンス作品。2017年ドイツ初演。ハラが注目を浴びるきっかけとなった意欲作のリクリエーション。

Saori Hala

ダンサー、振付家、美術家。ドイツと日本を拠点に、空間と身体、身体の帰属をテーマとした作品を制作する。バックグラウンドであるデザインや生態心理学を応用した独自の創作スタイルが評価され、国内外でその活動の幅を広げている。近年の共演、出演、振付に大谷能生、角銅真実、原田知世、蓮沼執太、U-zhaan、NIKE、BLESS、資生堂、shu uemura、カルティエなど。

アーティスト：ヤスミン・ゴデル/ヤスミン・ゴデル カンパニー

作品名：Practicing Empathy #3

公演日時：11/1 (月) 19:00、11/2 (火) 19:00

11/3 (水・祝) 15:00

会場：スパイラルホール



photo: Tamar Lamm

ヤスミン・ゴデルの9年ぶりの来日公演。ゴデルは2019年から「Practicing Empathy - 共感の実践」を題材にパフォーマンスやワークショップを行い、「共感」の概念を様々な視点やアプローチで探求してきた。シリーズ第3弾となる本作「Practicing Empathy #3」は、2020年以降のコロナ禍の影響を受け、ヤスミン初の長編ソロ作品として発表となる。

Yasmeen Godder

エルサレム生まれ、ニューヨーク育ち。1999年よりイスラエルを拠点に自身のカンパニーを率いて活動。リンカーン・センター・フェスティバル、HAU、タンツハウス nrw、モンペリエ・ダンス・フェスティバル、B-motion フェスティバル、クステン・フェスティバル・デザール、シドニー・オペラ・ハウスなど、国際的な場で作品を発表、受賞多数。「Moving Communities」プロジェクトを主導し、パーキンソン病を患う人々のためにダンスのクラスや国際会議なども行っている。

アーティスト：木野 彩子

作品名：レクチャーパフォーマンス『ダンスハ^{たいいく}體育ナリ?』其ノ三 2021 年踊ル?宇宙ノ旅

公演日時：11/5 (金) 18:30、11/6 (土) 18:30

会場：みなと科学館



photo: Yulia Skogoreva

日本では体育の一環として教えられているダンス。健康のために音楽に合わせて清く正しく美しく。其ノ一では明治期からの女子体育の歴史と大野一雄を、其ノ二では1940年頃の東京オリンピックと体操の大流行を扱った、シリーズ第三弾。元中高保健体育教師であり、ダンサーと大学講師の二足のわらじをはく木野が「ダンスどころか身体を放棄しつつある」人類の未来について、考察する。ダンスはどこへ行ったのか。プラネタリウムに乗って宇宙の旅に出る特別編。

Saiko Kino

ピンクレディのUFOに憧れダンスをはじめ、中高保健体育教員になるも、球技も跳び箱もできず、断念。ダンサーとして英仏で活動後、2016年鳥取大地域学部附属芸術文化センター常勤講師として着任。体育と芸術の狭間にいる当事者としてこのシリーズを作り続けている。

アーティスト：チジャ・ソン

作品名：Lands of Concert

公演日時：11/10 (水) 19:30、11/11 (木) 19:30

会場：BUoY



photo: Ely Chevillot, Camille Sultan & Carol Van Hemelrijck

京都で生まれ育ち、現在アムステルダムを拠点とするチジャ・ソンが日本で初めて作品を発表する。多様性を認め、受け入れることに重点をおいた「ケア」の原則に基づいた本作は、パフォーマンスとワークショップの要素を合わせ持ち、舞台上のアーティストと観客の境界が徐々に曖昧になり、その関係性は親密になっていく。人と人の繋がりや関係性をテーマにした作品を発表し続けているチジャの活動は、ヨーロッパのダンスシーンでも注目を浴びている。

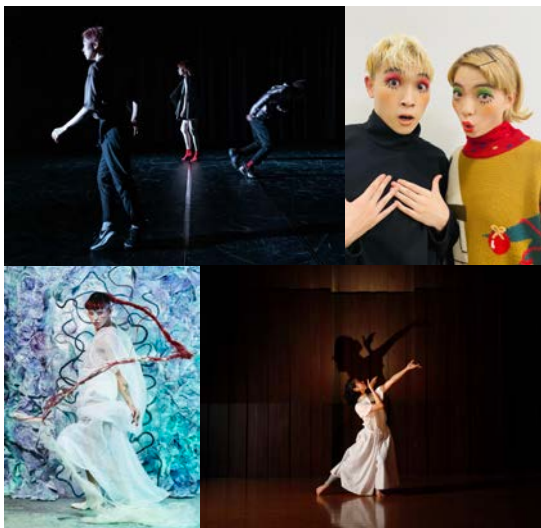
Jija Sohn

チジャ・ソン（日本・韓国・オランダ）はパフォーマーであり振付家。米国で応用言語学を学んだ後、パフォーマンス・アートに取り組む。2015年にアムステルダムの School of New Dance Development (SNDO) を卒業。若手アーティストをサポートするレジデンスプロジェクト「Moving Forward」に振付家として初めて選出された。

ショウケース

公演日時：10月30日 (土)

会場：スパイラルホール



現在、日本の若手振付家の一人として注目を集める橋本ロマンスのキュレーションによる特別プログラム。橋本ロマンス、アオイツキ、清水舞手 (SHIMIZUMASH)、やまみちやえという新たな時代を牽引していく20代の若き振付家・ダンサーたちの身体を通して、10年後のダンスシーンを体感できる注目のコンテンツ。

橋本 ロマンス：1995年生まれ。東京都出身。コンセプチュアルな手法を用いながらも、ポップ/ストリートカルチャーの要素を取り込むことでアートファン以外にも訴える魅力を持つ同時代性の高いパフォーマンスを制作する。SICF20 PLAY部門グランプリ(2019)、横浜ダンスコレクション2020 最優秀賞新人振付家賞(2020)など。(写真左上)

アオイツキ：アオイヤマダと高村月の二人からなる誠実で無秩序なポエトリーダンスパフォーマンスユニット。2019年8月結成。(写真右上)

清水 舞手 (SHIMIZUMASH)：舞う。弾く。纏う。感じた死生観を、身体で奏でる性別や枠組みに囚われない表現者。15歳から音楽学校に通い、19歳で身体表現に出逢う。自身で音楽を制作するなど音と身体を入り口に活動の幅を広げている。(写真左下)

やまみちやえ：1995年生まれ。高知県出身。幼いころより学んできた義太夫節と邦楽囃子、コンテンポラリーダンスにより、日本の古典作品を主題としたパフォーマンス作品の創作・上演を行う。2018年より木ノ下歌舞伎に所属。(写真右下 photo: 三上ナツコ)

- 会期： 2021年10月23日（土）～11月12日（金）
- 会場： スパイラルホール／スパイラルガーデン | 東京都港区南青山 5-6-23
草月ホール | 東京都港区赤坂 7-2-21
SHIBAURA HOUSE | 東京都港区芝浦 3-15-4
ゲート・インスティテュート東京 | 東京都港区赤坂 7-5-56
みなと科学館 | 東京都港区虎ノ門 3-6-9 1階・2階
BUoY | 東京都足立区千住仲町 49-1
シアター・イメージフォーラム | 東京都渋谷区渋谷 2-10-2
青山ブックセンター本店 | 東京都渋谷区神宮前 5-53-67 コスモス青山ガーデンフロア（B2F）
- 主催： Dance New Air 実行委員会、一般社団法人ダンス・ニッポン・アソシエイツ
- 共催： 港区（港区文化プログラム連携事業）、株式会社ダグレオ出版（シアター・イメージフォーラム）、
一般財団法人草月会、ゲート・インスティテュート東京
- 助成： 文化庁文化芸術振興費補助金（国際芸術交流支援事業） | 独立行政法人日本芸術文化振興会
公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京
- 協力： 株式会社ワコールアートセンター、SHIBAURA HOUSE、株式会社小林プロデュース、
ダンス保育園！！実行委員会、青山ブックセンター本店、SPREAD
- 後援： イスラエル外務省 イスラエル大使館、在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本

Dance New Air とは

ダンスの今と未来への視点を伝えるダンスフェスティバル、略称 DNA。

「ダンスビエンナーレ トーキョー 2002」をルーツに、形を変えて活動を続け、2014年より新たに「Dance New Air」として2年に一度開催。身体に組み込まれたDNAのように、絶えず時代を見つめ変化し続けるダンスの「今」と「これから」。会期中、東京・青山を中心に、田町、北千住とサテライト会場をつなぎ、社会へのメッセージを放ち、ニューエアー（新しい風）を起こしていくアーティストの作品を紹介していきます。

Web <http://dancenewair.tokyo/>

Instagram / Facebook @dancenewair

Twitter @DanceNewAir

- Press contact -

ご質問、取材・掲載等のご希望に関するお問い合わせは下記プレス担当までお願いいたします。

竹形 尚子 / デイリープレス 090-1531-6268 naotakegata@dailypress.org

森 祐子 090-26460-1793 yukom075@gmail.com